

松江東高校魅力化 ニュースレター

vol. 4
2019.07.25

文部科学省の視察が行われました



7月5日に文部科学省と内閣府から8名で視察に来校されました。校長から本校の取り組み状況や課題について説明した後、短い時間で

でしたが2年生の「総合的な学習の時間」の授業を見学していただきました。

また、コンソーシアム構成組織として島根大学・泉教授や松江市役所・矢野専門監にもご来校いただき、それぞれの立場からコンソーシアムに関わる意義や期待することをお

話しいただきました。その中で矢野専門監は「高校とともに育ち合う地域でありたい。」と言われ、頼もしく、ありがたいなと感じました。

本校の取り組みの中で、視察団は特に大学との関係性に関心があったようで、島根大学の学生が高校に入り込んでもっと密な高大接続などが考えられないか？などの意見がありました。



2年生、松江市内の企業等に訪問

2年生の課題研究では、6月中旬に、「松江の〇〇を東京の△△に売り込むには？」のテーマが各班に与えられました。「松江の和菓子を高校生に売り込むには？」「松江の美保神社を高齢の夫婦に売り込むには？」など、36通りのテーマから班ごとに選びました。

7月には、生徒は、売り込む商品・サービス等を研究するため、松江市内の和菓子屋さ

んやお米屋さん、加賀潜戸や美保神社といった観光施設など、テーマに関係する事業者等を訪問しました。商品・サービスの歴史や独自のこだわりなどを聞くことができたようで、より深い学びに繋がったのではないのでしょうか。対応してくださった方が優しくて良かったと安心している生徒もいました。ご協力いただいた施設・企業等の皆様、ありがとうございました。

2年生、課題研究の中間発表



7月19日は島根大学で受講する「イノベーション創生基礎論」の最終回でした。この日は、課題研究のテーマについてポスター発表を実施し、他の班や大学生から、より良い研究につながる意見をもらう機会となりました。

生徒は、「企業訪問で得た情報や、その時感じた気持ちなどをもっと発表に盛り込めばよかった。」「情報収集が全く不十分だった。」などの気づきがあったようです。また、年齢がさほど変わらない大学生のプレゼンを見て、興味を誘う話し方やポスターのまとめ方などに刺激を受けていました。

生徒は今後、もらった意見などをもとに課題研究をさらに進め、10月の東京研修で実地調査を行います。

発行者

魅力化コンソーシアムマネージャー
福井 香衣 (ふくい かい)



1年生は、7月はCMづくりに奮闘！次号でCM発表会の様子をご報告します。